

防災訓練の結果の概要（個別訓練②）

1. 訓練の目的

本個別訓練は、全交流電源喪失時の各対応手順書に従った操作訓練を繰り返し行うことにより、全交流電源喪失時の対応者の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2018年3月20日 ～ 2019年1月28日

(2) 対象施設

再処理施設

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を定め、実施担当者が訓練を行う。

(2) 評価体制

定められた手順書どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

再処理施設の全交流電源の喪失並びにそれに伴う高レベル濃縮廃液貯槽等の冷却機能および水素掃気機能の喪失等を想定する。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 防災訓練の内容

(1) その他必要と認める訓練

- ①代替電源供給対応訓練
- ②使用済燃料貯蔵プールへの注水対応訓練
- ③冷却コイルへの注水対応訓練
- ④貯蔵室の換気対応訓練
- ⑤水素掃気用圧縮空気対応訓練
- ⑥通信設備用発電機対応訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料参照）

(1) その他必要と認める訓練

- ①代替電源供給対応訓練
 - ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、電源車により再処理施設本体の非常用主母線に電源を供給する作業の訓練を実施。
- ②使用済燃料貯蔵プールへの注水対応訓練
 - ・使用済燃料貯蔵プールの冷却機能が喪失したことを想定し、可搬式消防ポンプ等により使用済燃料貯蔵プールへ水を供給する作業の訓練を実施。
- ③冷却コイルへの注水対応訓練
 - ・安全冷却水系（崩壊熱除去）の機能が喪失したことを想定し、機器を冷却する安全冷却水系内部ループへ消防ポンプ等により水を供給する作業の訓練を実施。
- ④貯蔵室の換気対応訓練
 - ・ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋において、貯蔵室排風機が全台起動不能の場合を想定し、可搬式送風機により貯蔵室の換気を行う作業の訓練を実施。
- ⑤水素掃気用圧縮空気対応訓練
 - ・安全圧縮空気系に圧縮空気を供給する機能が喪失したことを想定し、エンジン付き空気コンプレッサーによる安全圧縮空気系へ圧縮空気を供給する作業の訓練を実施。
- ⑥通信設備用発電機対応訓練
 - ・地震等により全交流電源が喪失した場合を想定し、通信設備用発電機の起動、通信設備用発電機から電源を供給するためのケーブルの敷設等の作業の訓練を実施。

8. 訓練の評価

各個別訓練について定められた手順どおりに訓練が実施され、対応者の習熟を図れた。訓練ごとの評価結果は添付資料のとおり。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

訓練ごとの今後の原子力災害対策に向けた改善点は添付資料のとおり。

〈添付資料〉

個別訓練の概要

以 上

個別訓練の概要

○全交流電源喪失対応訓練（訓練実施日：2018年3月20日～2019年1月28日（訓練を繰り返し実施（当該期間内で合計142回、参加人数は延べ975名。）））

訓練項目	実施体制 (①実施責任者、②、③実施担当者)	実施結果	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
代替電源供給対応訓練 全交流電源機能が喪失したことを想定し、電源車の出動、起動および電源車から電源を供給するためのケーブル敷設の訓練（実動）を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計255名（延べ） （訓練実施数：65回）	手順書に従って、要員の現場配置、電源車の出動、起動、ケーブル敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
使用済燃料貯蔵プールへの注水対応訓練 使用済燃料受入れ・貯蔵施設の使用資機材の配置場所の確認、消防ホース敷設の訓練（実働）を実施。	②燃料管理課員 計6名 （訓練実施数：1回）	手順書に従って、要員の現場配置、使用資機材の配置場所の確認、消防ホース敷設作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの注水対応訓練 安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計310名（延べ） （訓練実施数：43回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの注水対応訓練 分離建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	②分離課員 計12名 （訓練実施数：1回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの注水対応訓練 精製建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	②精製課員 計7名 （訓練実施数：1回）	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの注水対応訓練 高レベル廃液ガラス固化建屋の安全冷却水系（崩壊熱除去機能）が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する訓練（実動）を実施。	①ガラス固化施設部長 ②ガラス固化課長 ③ガラス固化課員 計34名（延べ） （訓練実施数：4回）	手順書に従って、消防ホース敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。

訓練項目	実施体制 (①実施責任者、②、③実施担当者)	実施結果	今後の原子力災害 対策に向けた改善点
冷却コイルへの注水対応訓練 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系(崩壊熱除去機能)が喪失したことを想定し、安全冷却水系に冷却水を供給する消防ホースを敷設する訓練(実動)を実施。	②脱硝課員 計29名 (訓練実施数: 1回)	手順書に従って、現場配置、消防ホース敷設、接続作業等が実施できることを確認した。また、過酷環境時(防護装備装着)で訓練実施し、対応能力の向上を図ることができた。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
貯蔵室の換気対応訓練 ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋において、貯蔵室排風機が全台起動不能の場合を想定し、可搬式送風機により貯蔵室の換気を行う作業の訓練を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計44名(延べ) (訓練実施数: 7回)	手順書に従って、要員の現場配置、ルート確保・ケーブル敷設および送風機操作作業が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
水素掃気用圧縮空気対応訓練 安全圧縮空気系に圧縮空気を供給する機能が喪失したことを想定し、エンジン付き空気コンプレッサーによる安全圧縮空気系への圧縮空気を供給する作業の訓練を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計112名(延べ) (訓練実施数: 8回)	手順書に従って、要員の現場配置、コンプレッサーのホースの敷設、起動/停止、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
通信設備用発電機対応訓練 全交流電源機能が喪失したことを想定し、通信設備用発電機の起動および電源を供給するためのケーブル敷設の訓練(実動)を実施。	①統括当直長または当直長他 ②当直員 計166名(延べ) (訓練実施数: 11回)	手順書に従って、要員の現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業等が実施できることを確認した。	必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。